

高知市(四国ブロック)

【計画期間 24年11月～30年3月】

- ・ 中世～幕末：山内一豊が大高坂山に城を築き、その後、高知城を中心に土佐の政治、経済、文化の中心地として発展していく。幕末には坂本龍馬など勤皇の志士を排出して明治維新の礎を築く。
- ・ 明治～昭和：明治22年市政の施行から、幾度かの合併を経ながら県都として発展していく。

【中心市街地を巡る状況】

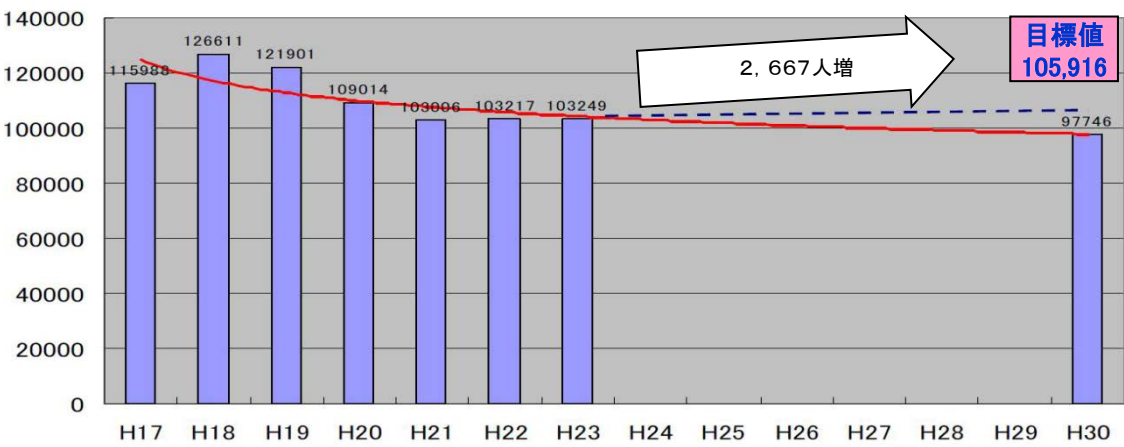
- 高度成長期やバブル期における住宅圏の拡大、生活を支える店舗やサービス施設の郊外立地により、中心市街地の人口が郊外に流出。
- 郊外への大規模小売店舗の進出や、中心市街地の大規模小売店舗の相次ぐ撤退などの影響を受け、中心市街地の魅力が失われ、回遊性が低下し、歩行者通行量が減少。

目標	指標	基準値 (H23)	目標値 (H30)
新しい街なかの暮らし方を 実感できる基盤を充実させる	居住人口	5,017人	5,145人
街なかの回遊性を向上させる	歩行者通行量 (平日・休日合計)	103,249人	105,916人

【中心市街地に関する指標の推移】

- 中心市街地の居住人口
H14: 6,044人 → H23: 5,017人 (▲17.0%)
- 歩行者通行量(平日・休日合計)
H17: 115,988人 → H23: 103,249人 (▲11.0%)

【中心市街地の歩行者通行量の推移と数値目標】



【目指す中心市街地像】

○ 土佐の歴史を感じる魅力あふれる街を形成し、高知市から高知県全域の賑わいを創出する。

- 新しい街なかの暮らし方を実感できる基盤を充実させる
⇒ 主要事業：①(仮称)帯屋町二丁目複合施設整備事業、②「セントラルレジデンス高知中央公園」整備事業、③新庁舎建設事業 など
- 街なかの回遊性を向上させる
⇒ 主要事業：④新資料館整備事業、⑤おもてなし拠点の魅力向上事業、⑥旧少年補導センター跡地活用事業、⑦新図書館等複合施設の整備、⑧よさこい情報発信機能強化事業 など

